

## 第 31 回 海外子女教育セミナー

### 「変わりゆく海外子女教育—その現状と展望—」

近年、在外教育施設をとりまく状況は、大きく変わりつつあります。今年度のセミナーでは、現状を踏まえた上で、どのような教育実践を展開していけばよいのか、実践に役立つ視点を提示していきたいと思えます。午前中はまず、文部科学省初等中等教育局国際教育課専門官の牧野映也氏より、海外子女教育に関する国内外の状況と施策、派遣教員の役割についてお話をいただきます。次に、国際教育センターの稲田素子特任准教授より、状況の変化をふまえながら、海外子女教育の実践がどこへ向かっているのか、実践記録をもとに、お話をさせていただきます。午後は近年帰国された先生方から、在外教育施設における実践をご報告いただきます。その後は、日本人学校への派遣希望者と補習授業校の派遣希望者に分かれて、分科会を行います。海外での教育実践について参加者で考えたり、海外での生活全般に関する質問を受けつけます。在外教育施設に派遣を希望する教員の方、海外子女教育に関心をお持ちの方、この機会にぜひ、ふるってご参加ください。

■日時:平成 22 年 5 月 29 日(土) 10:00~16:45

■会場:東京学芸大学合同棟 1 階大教室

■対象: 在外教育施設派遣教員登録者、これから在外教育施設に派遣を希望する教員、及び海外子女教育に関心をお持ちの方

■主催: 東京学芸大学国際教育センター

### ■プログラム

総合司会: 榊原 知美(東京学芸大学国際教育センター講師)

9:30 開場、受付開始

10:00~10:10 開会のあいさつ 金谷 憲(東京学芸大学国際教育センター長)

### ■日程説明

10:10~11:00 講演「在外教育施設における派遣教員の役割」

牧野 映也(文部科学省初等中等教育局国際教育課海外子女教育専門官)

11:05~11:50 講義「海外子女教育と授業づくり—在外教育施設の実践報告から—」

稲田 素子(東京学芸大学国際教育センター特任准教授)

11:50~13:00 昼食

13:00~15:00 帰国教員による在外教育施設における実践報告

中野佐江子(前香港日本人学校香港校小学部教諭、福岡県立古賀特別支援学校教諭)

市村 貴広(前グアム日本人学校教諭、福生市立福生第二小学校教諭)

岡村 修夫(前ブエノスアイレス日本人学校校長)

豆野 朋雄(前カンタベリー補習授業校校長、三重県四日市市立常磐西小学校教諭)

15:00~15:15 休憩

15:15~16:45 分科会(日本人学校と補習授業校の2グループに分かれて)

(1)日本人学校分科会

ファシリテータ

滝 多賀雄(全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会副会長)

進行

佐藤郡衛(東京学芸大学副学長・国際教育センター教授)

見世千賀子(東京学芸大学国際教育センター講師)

榊原知美(東京学芸大学国際教育センター講師)

(2)補習授業校分科会

ファシリテータ

中村 衛(前ニューヨーク補習授業校校長、大阪府箕面市立南小学校長)

進行

吉谷武志(東京学芸大学国際教育センター教授)

菅原雅枝(東京学芸大学国際教育センター准教授)

16:45 閉会

## 平成22年度 第1回 JSL 研修

東京学芸大学国際教育センターでは、日本語を母語としない児童生徒(JSL 児童生徒)の教育に関わる方々を対象とした研修会を以下の日程で開催します。

【第1回 みんなで考えよう JSL 児童生徒への指導ー自分の課題と方向性ー】

2010年6月26日(土)開催

【第2回 みんなで考えよう JSL カリキュラムの理念を生かした授業作り】

2010年10月23日(土)開催

※申込時に分科会のグループ分けのためのアンケートにご回答いただきます。そのため、2回ともご参加いただける方も、申し込みは1回ずつお願いいたします。

第1回はJSL 児童生徒教育の現状、日本語指導の考え方、校内の体制作りなどについて研修を行います。第2回はそれを受けて「JSL カリキュラム」を生かした授業作りを行います。

■日時:2010年6月26日(土) 10:00~17:00

■場所:東京学芸大学(小金井キャンパス)S棟

■定員:60名

■費用:無料

\*分科会報告は[こちら](#)(『こどものにほんご』サイト内にリンク)

■プログラム

全体進行:見世千賀子(東京学芸大学国際教育センター)

9:30 受付

10:00 開会

開会挨拶 金谷 憲(東京学芸大学国際教育センター長)

10:10 講義1 全体講義「外国人児童生徒教育の課題」

吉谷武志(東京学芸大学国際教育センター)

10:30 講義2 全体講義「学齢期の子どもに対する第二言語としての日本語教育」

菅原雅枝(東京学芸大学国際教育センター)

11:10 休憩

11:15 講義3 全体講義「学校における日本語指導と日本語学級担当者の役割」

近田 由紀子(浜松市立瑞穂小学校)

12:00 昼食

13:00 実践紹介

日本語指導:和田 玉己(九州大学留学生センター)

小学校:高橋 理恵(豊島区立 池袋小学校)

濱村 久美(新宿区立 大久保小学校)

今澤 悌（甲府市立 新田小学校）

中学校：傍士 輝彦（東京学芸大学附属世田谷中学校）

14:40 分科会

講師：

今澤 悌（甲府市立 新田小学校）

菊池 聡（横浜市立 いちよう小学校）

黒須 陽子（宇都宮市立 清原東小学校）

近田 由紀子（浜松市立 瑞穂小学校）

高橋 理恵（豊島区立 池袋小学校）

濱村 久美（新宿区立 大久保小学校）

赤羽 寿夫（東京学芸大学附属国際中等教育学校）

傍士 輝彦（東京学芸大学附属世田谷中学校）

郡司 英美（宇都宮市教育委員会）

和田 玉己（九州大学留学生センター）

16:10 休憩

16:20 全体会

17:00 閉会

## 第 11 回 外国人児童生徒教育フォーラム

—誰でも参加できる外国人児童生徒教育支援—行政・NPO・学校の境を超えて—

2000年に始まった国際教育センター「外国人児童生徒教育フォーラム」も、今年で11回となりました。今年度は、10月2日(土)に下記の要領で開催します。今回のタイトルは、「誰でも参加できる外国人児童生徒教育支援—行政・NPO・学校の境を超えて」です。

第1回、第2回のフォーラムでは、地域や学校を結ぶネットワークについて取り上げました。その後も、行政・学校とさまざまな支援団体の連携の重要性は繰り返し指摘されてきました。けれども、連携の動きは必ずしも順調に進んでいるとはいえないのではないかと思います。今回は、「境を超えて」活動をしてきた、またはしようとしている方々のお話をうかがいながら、どうすれば連携にむけて動いていくことができるのかについて、議論を深めていければと考えています。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

■ 日 時：2010年10月2日(土)

■ 場 所：中野サンプラザ

(〒164-8512 東京都中野区中野4-1-1 TEL 03-3388-1151)

最寄駅 JR 中央・総武線／東京メトロ東西線「中野」駅 北口より徒歩1分

■ 定 員：90名

プログラム

9:30 受付

10:00 開会

10:00～10:10 開会挨拶 金谷 憲(東京学芸大学国際教育センター長)

10:10～10:30 趣旨説明 菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター)

10:30～11:05 報告1「外国人集住地域における教育支援の連携—豊田の事例から—」松本 一子(愛知淑徳大学)

11:05～11:40 報告2「行政・学校と連携して取り組む日本語学習支援－札幌市の事例から－」今田 滋代(札幌子ども日本語クラブ)

11:40～12:15 報告3「進路ガイダンスを通して展開する地域との連携－千葉県の経験から－」白谷 秀一(千葉県立四街道高校)

12:15～13:35 昼食

13:30～14:00 発題に対するコメント 吉谷 武志(東京学芸大学国際教育センター)

14:00～16:45 パネルディスカッション及び全体討議(途中休憩15分)

松本 一子(愛知淑徳大学)

今田 滋代(札幌子ども日本語クラブ)

白谷 秀一(千葉県立四街道高校)

吉谷 武志(東京学芸大学国際教育センター)

16:45 閉会

## 平成22年度 第2回 JSL 研修

「みんなで考えよう JSL のカリキュラムの理念を生かした授業づくり」

6月の第1回研修会に続き、以下の日程で、日本語を母語としない児童生徒(JSL 児童生徒)の教育に関わる方々を対象とした研修会を開催します。

今回は、「JSL カリキュラム」の考え方を学びます。また少人数のグループでディスカッションをしながら「JSL カリキュラムの考え方」を基にした指導の展開や、それぞれの場面での支援の方法を具体的に考えていきます。皆様のご参加をお待ちしております。

■日時:2010年10月23日(土) 10:00～17:00

■場所:東京学芸大学(小金井キャンパス)S棟

■定員:60名

■費用:無料

■プログラム

全体進行:見世千賀子(東京学芸大学国際教育センター)

10:00 開会

10:00～10:10 開会挨拶 金谷 憲(東京学芸大学国際教育センター長)

10:10～10:50 全体講義「JSL カリキュラムの考え方」佐藤郡衛(東京学芸大学国際教育センター)

10:50～11:00 休憩

11:00～12:00 実践紹介

「JSL をいかした社会科の授業」近田 由紀子(浜松市立 瑞穂小学校)

「学習につなげる『書くこと』の指導」谷 啓子(練馬区教育委員会日本語指導員)

12:00～12:15 授業づくりにむけて 菅原雅枝(東京学芸大学国際教育センター)

12:15～13:30 昼食

13:30～15:30 分科会

講師:

今澤 悌 (甲府市立 新田小学校)

近田 由紀子(浜松市立 瑞穂小学校)

濱村 久美(新宿区立 大久保小学校)

赤羽 寿夫(東京学芸大学附属国際中等教育学校)

小川 郁子(北区立稲付中学校)

郡司 英美（宇都宮市教育委員会）  
谷 啓子（練馬区教育委員会日本語指導員）  
和田 玉己（福岡市教育委員会日本語指導員）

15:30~15:45 休憩  
15:45~17:00 全体会  
17:00 閉会

## JSL サテライトセミナー イン姫路 みんなでつくる日本語教室

—受け入れ体制から初期日本語指導、JSL 授業実践まで—

この度、東京学芸大学国際教育センターでは、兵庫県教育委員会・姫路市教育委員会との共催により、日本語指導が必要な児童生徒(JSL 児童生徒)の在籍する学校の教職員、教育委員会及び日本語指導教育関係者を対象として、標記の通り、「みんなでつくる日本語教室—JSL サテライト・セミナー・イン姫路」を開催いたします。

JSL 児童生徒への日本語指導は、多文化化が進む今日の学校にとって必須の課題ですが、教育関係者にとっては、まだ新しい課題の一つであり、研修会等への参加の機会が望まれています。

本センターでは、日本語指導を担当されている先生はもとより、在籍校の担任、管理職の先生方など、在籍する学校関係者の課題解決に役立つ知見を提供すべく、裏面のプログラムのとおり研修会を実施いたします(参加費無料)。

ご多忙中とは存じますが、是非この機会を利用していただくようご案内いたします。

平成 22 年 8 月 20 日  
国立大学法人東京学芸大学国際教育センター  
兵庫県教育委員会・姫路市教育委員会

■日時:平成 22 年 11 月 13 日(土) 10:00 ~ 17:00  
平成 22 年 11 月 14 日(日) 10:00 ~ 17:00

■場所:姫路市民会館(〒670-0015 姫路市総社本町 112 番地)

※会場校への問い合わせ、連絡はご遠慮下さい。

※駐車場はありません。公共駐車場又は公共交通機関をご利用下さい。

■定員:100 名 Aコース 2 日間(日本語教室等担当教員、小中学校教員) 60 名  
Bコース 1 日間(教育委員会、管理職教員、日本語指導員等) 40 名

■費用:無料

■プログラム

■11月13日(土)

【A 教員／教科学習コース】

10:00~ 受付

10:30~ 開講式

10:45~ 全体講義

外国人児童生徒等の現状とその教育課題(国際教育センター)

11:45~ 実践紹介1

①日本語教室の日本語指導(日本語教室担当教員から)

②初期日本語指導員の日本語指導(日本語初期指導員から)

12:35~ 昼休み

13:40~ 実践紹介2

(1)日本語教室での日本語指導

(2)JSL 日本語指導

(3)在籍学級での日本語指導

質疑

17:00 第1日目終了

【B 管理職・指導員／日本語指導コース】

10:00~ 受付

10:30~ 開講式

10:45~ 全体講義

外国人児童生徒等の現状とその教育課題(国際教育センター)

11:45~ 実践紹介1

(1)日本語教室の日本語指導(日本語教室担当教員から)

(2)初期日本語指導員の日本語指導(日本語初期指導員から)

12:35~ 昼休み

13:40~ 実践・教材紹介

(1)日本語指導を踏まえた学校作り

(2)指導員の日本語指導と学校、学級

15:10~ 休憩 14:30~ 職能別分科会

・学校管理者の役割を考える

・日本語指導員の役割を考える

15:20~ ミニ講義

JSL 日本語指導と JSL を意識した授業作りについて

16:20~ 分科会

①班編制

②授業案作りの班別課題設定 16:20~ 総括

閉講

17:00 第1日目終了

■11月14日(日)

【A 教員／教科学習コース】



10:00~ 分科会

授業作り:班活動

12:00~ 昼休み

13:00~ ポスターセッション

各班の発表

振り返り

16:00~ 講評・総括・全体発表

16:45~ 閉講(17:00 終了)

## 【B 管理職・指導員／日本語指導コース】

Bコースは1日で終了です。

Bコース参加者で、第2日にも参加を希望される方は別途申し出てください。

# 第2回 多文化共生フォーラム

大学・学部における多文化共生の教育への取り組みの現状と課題

ー外国につながる子どもの教育を中心に パート2ー

多文化共生フォーラムは、多文化化が急速に進行する日本の学校の現状に対し、「多文化共生」という課題を正面に据えて、教育における対応や今後のあり方について議論することを目的としています。昨年行われた、第1回フォーラムでは、「教員養成大学・学部における多文化共生の教育への取り組みの現状と課題ー外国につながる子どもの教育を中心に」というテーマの下で、4大学(静岡大学、京都教育大学、宮城教育大学、東京学芸大学)の取り組みが報告されました。報告を通して、個々の大学の実状によって、課題が異なることが明らかになりました。しかし、共通の課題として、教員養成全体に「多文化共生」という理念が浸透していないこと、教育系の学生が外国につながる子どもやその教育に関わる知識が乏しく、関心も低いこと、さらには研修の対象者が限定されていること等が浮かびあがりました。参加者から、次年度以降もこの課題について深めてほしいとの要望も多く、第2回も継続してこのテーマに取り組むことにいたしました。今回も、それぞれの大学における外国につながる子どもの教育への取り組みの現状について報告いただき、今後、多文化共生の教育を大学においてどのように進めたらよいか、ご参加の皆さまと一緒に考えていきたいと思っています。

フォーラムの前半は、各大学での取り組み(講義での取り上げ方や大学としての取り組みの実践例)、さらに各個人の取り組みなどについて発題していただきます。後半は、各発題を踏まえ、パネルディスカッションを行い、大学における多文化共生の教育の今後のあり方などについて議論をしていきます。

■主催:東京学芸大学 国際教育センター

■日時:2011年1月29日(土)13:00~17:00

■場所:東京学芸大学(小金井キャンパス)S棟303教室

プログラム

12:30 受付開始

13:00 - 13:10 開会の辞 金谷 憲(東京学芸大学国際教育センター長)

13:10 - 13:30 趣旨説明 見世千賀子(東京学芸大学国際教育センター准教授)

13:30 - 15:00

●「信州大学の取り組みからー外国につながる子どもの学びを支える大学・地域の実践と課題」

徳井 厚子(信州大学教育学部准教授)

●「宇都宮大学の取り組みからーHANDS プロジェクトの実践」

田巻 松雄(宇都宮大学国際学部准教授)

●「山形大学の取り組みから－『山形県外国人児童生徒受け入れハンドブック』の作成過程にみる地域の連携について」

内海 由美子(山形大学基盤教育院准教授)

15:00 - 15:15 休憩

15:15 - 16:45 パネルディスカッション

「大学における多文化共生の取り組みをめぐって」

指定討論者: 渋谷 恵(常葉学園大学教育学部准教授)

パネリスト: 徳井 厚子(信州大学教育学部准教授)

田巻 松雄(宇都宮大学国際学部准教授)

内海 由美子(山形大学基盤教育院准教授)

16:45 - 17:00 まとめと閉会

\*プログラムの内容は変更となることがあります。

## 第4回 国際教育センターフォーラム

「文化間移動をする子どもの算数・理科学習とその支援－発達・学習の心理学の視点から－」

多文化な背景をもつ子どもの学力に関する国際比較研究では、多くの国において、ネイティブの子どもとの間に学力差があることが報告されています。日本でも同じような学力差が存在することが、近年、重大な教育上の問題の一つとして指摘されています。第4回国際教育センターフォーラムでは、このような現状を踏まえ、特に子どもの算数・理科学習に焦点をあて、これまで発達・学習の心理学において行われてきた研究の成果を概観します。これにより多文化な背景をもつ子どもに対する学習支援を構想するための新しい視座を得ることを目指します。

本フォーラムは、国際教育センターが取り組んでいる共同研究プロジェクト「多文化的背景をもつ子どもへの学習支援に関する発達心理学的研究」の中間報告でもあります。これからの研究の方向性や課題について、ご来場の皆様と様々な角度から意見交換ができればと考えています。現場で教育実践に取り組まれている方、研究者の方、あるいはこうした問題に関心をお持ちの学生や一般の方もぜひご参加ください。

■主催: 東京学芸大学 国際教育センター

■日時: 2011年3月5日(土) 13:20~16:30(受付 13:00~)

■会場: 中野サンプラザ 8階 研修室2

(〒164-8512 東京都中野区中野 4-1-1 TEL 03-3388-1151)

最寄駅 JR中央線・総武線/東京メトロ東西線「中野」駅 北口より徒歩1分)

■定員: 90名

プログラム

13:20 開会 金谷 憲(東京学芸大学国際教育センター長)

13:25~13:35 趣旨説明 榊原知美(東京学芸大学国際教育センター講師)

13:35~15:05 研究報告

「子どもの具体的な経験が算数の理解を助ける－幼児期の遊びの重要性－」

山名裕子(秋田大学教育文化学部准教授)

「文化間移動をする児童を含む子どもの算数問題解決とその支援－情報処理アプローチの視点から－」

多鹿秀継(神戸親和女子大学発達教育学部教授)

「わが国の理科授業におけるインフラストラクチャー: 認知的・社会文化的アプローチの視点から」



高垣マユミ(実践女子大学生生活科学部教授)

15:05～15:15 休憩

15:15～16:30 討論

山名裕子(秋田大学教育文化学部准教授)

多鹿秀継(神戸親和女子大学発達教育学部教授)

高垣マユミ(実践女子大学生生活科学部教授)

瀬尾美紀子(相模女子大学学芸学部講師)

【コメンテーター】

市川昭彦(群馬県大泉町立東小学校教諭)

高木光太郎(青山学院大学社会情報学部教授)

16:30 閉会

\*プログラムの内容は変更となることがあります。

## 国際シンポジウム

### [重要]開催日程 延期のお知らせ

今回の東北地方太平洋沖地震より被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧を重ねて心よりお祈り申し上げます。

上記シンポジウムの開催日程を5月以降に延期いたします。被災地での状況はもちろん、関東地方での計画停電、公共交通の縮小が実施されていることや、福島第一原子力発電所の事故による空気中の放射線量の増加および放射性物質の拡散の問題が解決していないことを考慮し、このような決断にいたしました。

これまで多数の参加申し込みをいただいておりますが、今の状況で開催しますと、いらっしゃることのできない方が多く出る可能性があります。5月以降に延期することによって、今回参加をご希望くださった方に、ご不便やご不安なく参加いただけることを期待しております。

新たな日程につきましては、決定次第、お知らせをお送りいたします。ご了承いただけますようお願い申し上げます。

企画者一同、状況が一日も早く改善され、シンポジウムで皆さんとお会いできることを心より願っております。

大井学(金沢大学)・権藤桂子(共立女子大学)・松井智子(東京学芸大学)

国際シンポジウム 多言語環境児童の学習言語の発達と障害

—イマージョン教育から見えてくること—

グローバル化の進行に伴い、我が国でも多言語環境で育つ児童が増えています。本シンポジウムでは、多言語環境で育つ児童の学習言語の発達と障害について、イマージョン教育の第一線の研究者、教育者による講演を企画しています。また、多言語環境で育つ発達障害児も増加傾向にあり、支援や研究の必要性が高まっています。これらの児童の言語発達と障害についても意見交換ができる機会にしたいと思っております。多くの方のご参加をお待ちしています。

■日時:2011年3月24日(木)午後1時～午後6時

■場所:共立女子大学3号館610教室(東京都千代田区神田神保町3-273号館)

■主催:金沢大学子どもの心の発達センター

■共催:東京学芸大学国際教育センター

RISTEX プロジェクト「自閉症にやさしい社会:共生と治療の調和の模索」

多言語発達支援研究会

■後援: 共立女子大学発達相談・支援センター

■企画: 大井学(金沢大学)

権藤桂子(共立女子大学)

松井智子(東京学芸大学)

## プログラム

13:00-13:10 挨拶 大井学氏(金沢大学教授)

13:10-14:40 講演1 中島和子氏(トロント大学名誉教授)

14:40-15:40 講演2 古石篤子氏(慶応大学教授)

15:40-16:00 休憩

16:00-17:30 講演3 Friebus-Flaman, Marion 氏 (Principal, Dooley Elementary School)

17:30-17:50 質疑応答

17:50-18:00 挨拶 大井学氏

\*プログラムの内容は変更となることがあります。

## シンポジウム講演要旨

■講演1 「マイノリティー言語児童生徒とイマージョン教育」

中島和子氏(トロント大学名誉教授。カナダ日本語教育振興会名誉会長, 母語・継承語・バイリンガル教育研究会会長)

1960年代にカナダで始まったイマージョン教育は、教科学習の50%以上を第2/3言語で行う学校環境である。加算的バイリンガル育成の有効な手段として40年以上の実績があり、現在世界各地で使われている言語教育の1形態である。国内の外国人児童生徒のようなマイノリティー児童生徒にとってもイマージョン教育が学習言語を伸ばす学習環境となるのであろうか。学校で教科学習をL2(日本語)で行うため、日本語に'immerse'したイマージョン的状况ではあるが、L1(母語)を使用した教科学習がないため、母語が後退、喪失の危険に晒され、母語の学習言語が育たない。このために日本語の学習言語の獲得も遅れがちで、結果として減算的バイリンガル(母語は捨てて現地語のモノリンガルになる)ケースが多い。マイノリティー児童生徒の母語の学習言語を育てるあり方として、カナダ(中部3州)の継承語イマージョン、米国の双方向イマージョン(Two-way immersion)、海外児童生徒教育のための週末イマージョン(補習授業校)の例を取り上げる。

■講演2「ろう児のバイリンガル教育—カナダ Drury 校の試みを通して」

古石篤子氏(慶応大学教授)

ろう児が知覚上の不全感なく獲得し使用できる言語は手話であり、日本ではそれは日本手話、英語圏カナダではASL(アメリカ手話)である。これらの手話は言語学的に見て音声日本語・音声英語とは異なる独自の文法をもった自然言語のひとつとされる。したがって、日本手話やASLを使用するろう者はその居住地域において言語的少数者である。このような子どもたちの教育環境の構築をカナダ・オンタリオ州立 Drury 校の実践を通して考えたい。わが国のろう教育では未だ聴覚口話法が主流であり、手話の言語環境は不十分であるが、Drury 校ではバイリンガル教育を行っている。これは第一言語としてのASLと第二言語としての書記英語の2言語の習得を目指すものである。しかしながら、視覚と聴覚という異なるモードの2言語獲得は容易なことではない。発表では Drury 校での実践を、ビデオを見ながらご紹介したい。特に幼稚部や小学部での発達に応じた2言語教育、ASL-phabet(grapheme)を通じての言語意識の育成、MVL(Manipulative Visual Language)使用の英語教育などについて触れようと思う。

■講演3 "Educating Bilingual Students with Special Needs in a Japanese-English Dual Language Program"

Marion Friebus-Flaman, Ph.D. (Thomas Dooley Elementary School)

Dooley Elementary School is a K-6 public school that houses a Japanese-English two-way immersion program. This program is designed to develop students who are bilingual, bi-literate and bicultural, with approximately half of the students entering Kindergarten as native speakers of English and half of the students entering Kindergarten as native speakers of Japanese. From Kindergarten through 6th grade, half of the curriculum is delivered in Japanese and half in English. Over 200 students participate in this program. Of these students, there are a handful of students who have been diagnosed with cognitive disabilities or ASD/PDD. The presenter will give an overview of the two-way immersion program; then focus specifically on the instructional strategies and supports employed in educating Japanese-English bilingual students who have these special needs. The roles and responsibilities of classroom teachers, instructional assistants, special education resource teachers, and other related services staff will be presented as well as parents' roles and communication between home and school. Video clips of instruction and samples of student work will also be presented.